

音楽芸術表現演奏領域

Field of Vocal/Instrumental Performance, Conducting and Composition

本領域の概要

2027年度から新たに設置されるこの領域では、声楽・器楽演奏および作曲・指揮の分野で、きわめて高度な実技研究を行います。演奏発表（リサイタル）または作品提出、国内外のコンクールや演奏会への出演など、毎年度の実績を着実に積み重ね、高度専門職を担うことができる人材として国際的に活躍できる実力を培います。最終的には、研究成果として、研究演奏発表または作品提出に加え、実技研究の総括として博士論文を執筆します。

入試課題の趣旨

1. 修士課程もしくは博士前期課程における研究内容(事前提出)

器楽・声楽・指揮の場合は、修士課程で取り組んだ主な作品のレパートリー、作曲の場合は修士課程での創作作品等について記します。またそれらを通じて何を獲得したかについて述べてください。修士論文等を執筆した場合は、その内容についても記してください。

2. 実技研究・活動実績書(事前提出)

大学学部・大学院修士課程の期間に限らず、これまでの活動実績（演奏会、作曲、著作物、コンクール歴等）について、該当する所定書式を本学ウェブサイトよりダウンロードし**事項別に時系列で**記してください。活動ごとに、例)を参考に概要を記し、活動の観点（テーマ）があればあわせて記してください。

例) 演奏会 : 年月日・会場、演奏会名称、概要（主催者、共演者、自身が演奏した曲目などの情報）。ソロ・リサイタル、室内楽、コンチェルトのソリスト、オーケストラのメンバーとして等がわかるように書く。

作曲作品 : 作曲年（月）、作品タイトル、概要（編成、演奏時間、初演情報（年月日・初演者等）、委嘱者など）。商業的な作品・劇伴なども含む。未発表のものは「(未発表)」と記す。

著作物 : 発表年（出版年）、タイトル、概要（発表形態・発表媒体名（単行本・論文・雑誌記事・Web記事等）、出版社、など）

コンクール : 年月日・会場、コンクール名称（正式名称）、受賞情報など

マスタークラス : 年月日（期間）、会場、名称、指導者情報など

その他（奨励金、受賞など） : 年月、奨励金（スカラシップ）・コンクール以外の受賞情報などの名称、概要

3. 博士後期課程における研究計画(事前提出、1200 字程度)

博士課程では、自立した研究を行う力が求められることから、自身の3年間の研究計画を適切に立てることはきわめて重要です。研究計画の作成に当たっては、「自身がこれまでに何を学び、何を積み上げてきたか」、「博士課程では何を目的に、何に重点的に取り組むか」を明確かつ具体的に記す必要があります。

① 修士課程において行った実技研究の概要

修士課程・博士前期課程における研究内容そのものについての詳細は、別途事前提出課題となっていますので、ここでは、**博士後期課程への進学を希望する背景**として、自身がこれまで**何に興味を持って、何に取り組んだか**（大学のカリキュラム以外で取り組んだ演奏活動等も含む）、またその結果としてどのような**問題意識・課題意識**を抱いているかなどについて述べてください。

② 博士後期課程における実技研究課題とその概要

博士後期課程で取り組むべき**自身の課題や目標、実技研究のテーマ**について具体的に記してください。特に、自身の研究における**独自の視点やオリジナリティ**がどこにあるかを明確に述べてください（たとえば「演奏様式の観点からの研究」「演奏史の観点からの研究」「演奏実践（パフォーミング・プラクティス）の観点からの研究」など）。また、博士における実技研究の成果は、最終的に演奏発表や作品提出とともに、博士論文の形で公表されることが義務付けられています。論文のテーマや題目は必ずしも現段階で決定している必要はなく、また研究の深化によって変更することも可能ですが、現時点で「**実技研究と論文とをどのように結びつけることを考えているか**」を述べてください。

③ 3年間の具体的な実技研究の計画

第1年次、第2年次、第3年次の計画を年次ごとに具体的に記してください。「音楽芸術表現演奏領域」では、カリキュラムとして定められた学修だけでなく、プロフェッショナルな演奏家・作曲家としての自発的な活動を重視しているので、国内外のコンクールへの挑戦や、演奏会等の計画、短期・長期の留学の計画も含め、**3年間の実技研究の全体像**が分かるように書いてください。また、最終的な到達点である「演奏発表」または「作品提出」、そして「博士論文」において、**どのような研究成果を上げるかというヴィジョン**を示してください。